

主な災害時の現地指導等

1 中国豪雨の下水道の現地指導

2013年7月に山口県北部から中央部を襲った豪雨により、萩市特定環境保全公共下水道（須佐処理区）では、隣接する国道法面の崩壊土砂が流入し処理機能が停止するなど甚大な被害が発生した。市では、下水道サービスの継続を目的に、県内3市の災害応援で派遣されたバキューム車も加わり汚水を汲み上げ、市中への溢水を防いだ。しかし、汚水運搬の長期継続は困難であり、処理場の応急普及が急務となったことから、国総研では汚水処理の段階的復旧方法や関係機関との協議などについて指導を行った。



下水道研究部 下水道機能復旧研究官 尾崎 正明

2 淡路島付近の地震による被災橋梁現地調査

2013年4月13日5時33分に発生した淡路島付近を震源とする地震（M6.3、最大震度6弱）により、淡路島内の斜張橋（洲浜橋、兵庫県洲本市管理、橋長149m）の橋台で大規模なひび割れが生じた。道路構造物管理研究室は、近畿地方整備局の依頼を受けTEC-FORCEとして、（独）土木研究所とともに現地調査を行い、安全性評価や復旧対策に関する技術指導を行った。



道路研究部 道路構造物管理研究室長 玉越 隆史、研究官 宮原 史

3 秋田県仙北市における土砂災害の現地指導

2013年8月9日の明け方からの集中豪雨により、秋田県仙北市供養佛地区では斜面崩壊を起因とする土石流が発生し、死者6人、けが人2人、家屋被害16棟（非住家10棟を含む）という甚大な被害をもたらした。砂防研究室では秋田県から災害調査の派遣要請を受け8月10日に現地踏査を行い、今後の警戒避難体制について、秋田県および仙北市に技術的助言を行った。また、本件については秋田県により「仙北市供養佛地区土石流警戒避難に関する検討委員会」が設置され、引き続き助言を行っているところである。



危機管理技術研究センター 砂防研究室長 蒲原 潤一、部外研究員 丹羽 諭